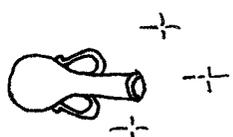




# いずみのひろば

2022年3月号  
日本基督教団 聖公会  
No.518 敬愛堂



マルコによる福音書14:3～9

## 「ナルドの香油」

イエスさまがベタニアという村にあるシモンのおうちにおられたときのことです。イエスさまはこれからみなで食事をしようとしておられたのです。そのとき、そこに一人の女の人がやってきました。その人は、手に白い壺を持っていました。その女の人は、イエスさまのところまで来ると、その壺をパクリンと割りました。するとそこから油が出てきました。とつてもいいにおいが部屋中いっぱいに広がりました。みんないまままでに嗅いだことのないようないい匂いです。このいい匂いにする油は、ナルドの香油といわれていました。ナルドの香油はとても貴重なものでした。そしてとても高価なものでした。女の人は、そのいい匂いにする油をイエスさまの頭に注ぎました。

イエスさまがおられたのは、シモンさんという人のおうちでしたが、このシモンさんは重い皮膚病でした。イエスさまの時代の決まりで、シモンさんは、ほかの人たちから離れて生活しないと決めませんでした。ひとりぼっちで、さびしくつらい毎日を過ごしていました。

イエスさまは重い皮膚病の人にやさしく手を差し伸べてくださり、その病気を治してくださる方でした。そのイエスさまが、シモンさんのおうちに来てくださったのです。イエスさまが自分を愛してくださっていることをシモンさんは知りました。シモンさんは思いました、「イエスさまが来てくださって、私は今、本当に生きています」。シモンさんは、生きていくことが嬉しくなりました。

高価なナルドの香油をイエスさまの頭に注いだ女の人も、イエスさまの愛に触れたのです。イエスさまが自分を愛してくださっているということを知ったのです。イエスさまに出会って、生きることが嬉しくなったのです。だから、どれだけ高価なナルドの香油であっても、イエスさまにすべてを注いで、「イエスさまありがとう」って感謝してお捧げしたのです。シモンさんも女の人も、イエスさまに愛されて、生まれ変わりました。イエスさまに愛されて、本当に生きることができるようになりました。本当に生きるということはどういうことなんだと喜びました。

わたしたちも同じです。神さまのひとり子であるイエスさまが、十字架で命を捨てるほどに私たちを愛してくださっています。イエスさまに出会い、イエスさまが自分を愛してくださっているということを知らった時、わたしたちは本当に生きることができなのです。イエスさまが、今も、そしてこれからもわたしたちと共にいてくださるのです。

(おはなし 油谷和重 先生)

